

連載

欧州から (10) MUSIQUES ET RECHERCHES 30周年

石井 紘美

Hiromi Ishii

International Academy of Art Heimbach Eifel

概要

この連載記事は主に欧州における現在の電子音響音楽に関する様々な活動や問題を電子音響音楽と一般社会、電子音響音楽と教育、電子音響音楽と現代音楽界などの観点からレポートしていく。この記事では今年創立30周年を迎えているベルギーの Musiques&Recherches の活動と創立者で作曲家である Annette Vande Gorne について紹介する。

This article-series reports today's issues and activities associated to electroacoustic music in Europe from the viewpoints of "electroacoustic music and general society", "electroacoustic music and education" and "electroacoustic music and contemporary music society". This article introduces the Musiques & Recherches Belgium at 30 focusing on its activities and its founder and composer Annette Vande Gorne.

1. ANNETTE VANDE GORNE

この女流作曲家については偶然 Computer Music Journal の春・夏号 (CMJ36:1 及び 36:2) に筆者の友人で Vande Gorne の弟子であった Elizabeth Anderson が仏語でインタビューしその英訳記事を寄せている。英語の得意な方々、また作曲理論や美学的な論述については、こちらを合わせて読まれることをお勧めしたい。Vande Gorne は 1946 年ベルギー生まれ、最初はクラシックピアノを学んだが、25歳のとき合唱指導のトレーニングコース受講中に偶然ミュージック・コンクレートのコンサートに足を踏み入れ、他の聴衆に習って目を閉じてスピーカーから流れるサウンドを聴くうちにその広大な可能性に気付いたという。そして即座にそれが自分のやりたいことだと判断、GRM メンバーによって行なわれていた電子音響音楽の講習に参加。「1977年、数多くの講習に参加したのち28歳の時に、50人もの志願者のうちから合格した12人の1人としてパリ国立音楽院に入学した。その頃フランスでは大変多くの人々がミュージック・コンクレートを学びたがっていた」という。彼女はそこで Pierre Schaeffer と Guy Reibel に師事

する。Vande Gorne の述懐は筆者も彼女自身から部分的に聞いたことがあるが、1970年代の日本の音楽教育状況と比較してうらやましく思うのはフランスにはその頃すでに電子音響音楽の講習が多々あり、また音楽大学にコースが存在していたことである。そして彼女が仏語を母国語とし、母国ベルギーが本場フランスの陸続きの隣国¹であり、ミュージック・コンクレートなど全く知らずとも偶然巡り会う機会があったということも、なんと幸運な作曲家だろうかと筆者を感嘆させる。そしてその幸運もまた才能のうちなのかもしれない。

1982年、Vande Gorne は故国ベルギーに自身の電子音響音楽スタジオ Musiques&Recherches を創立する。「1980年、私はパリの GRM に足を踏み入れながら、パリに留まるべきか或はベルギーに帰りそこにまだ存在していないものを生まれさせるべきか自問した。そして文化的な愛国心から後者を選んだ。それはシーザーの『故郷で一番になるか、ローマで二番になるか』というのに似ている」。彼女は自身のスタジオにベルギーの他の器楽作曲家達を招き作品制作の機会を提供した。1984年、20のコンサートによる10日間のフェスティバルを開催。これが Musiques&Recherches の公式デビューとなった。Vande Gorne は語る。「私は Musiques&Recherches をベルギー国内だけで機能するようなものではなく、あらゆる国際的な機会に対してオープンであるようにすることが有利さをもたらす重要でもあると理解していた。何故なら電子音響音楽は知られていない、”正式の”音楽に受け入れられていないマイノリティだったからだ。私は同様の作曲家達と共に働き彼らに作曲のためのツールと acousmonium によるディフュージョンの機会を提供する方が地元の作曲家達に仕事をさせ結局それらのテープを引き出しにしまい込むよりも良いだろうと思った」。

¹ 隣国とはいえブリュッセル・パリ間は列車で2時間程度である。

2. MUSIQUES & RECHERCHES における電子音響音楽教育

以来30年、このスタジオは創作活動の拠点のみならず教育の場としても多くの若い作曲家を育てて来た。その概要には『another way of listening』とある。『18歳以上の学生を対象とした国内機関であり、3年間の電子音響音楽教育の専門コースである。このコースは音響技術に関連する音楽および科学的知識と、電子音響音楽作品のレパートリーと研究文献に基づいている。最初の2年間で学生は彼ら自身の聴取能力およびこの分野の作品群に対する知識を高め、一方では作曲とスタジオ技術を学ぶ。これらは下記のコースにより実践される：聴取分析、音響学、サウンド・オブジェクトの記譜と聴取、音響合成技術、録音技術、電子音響楽器法、音楽に関するコンピュータ技術、音楽および電子音響楽器史。一般音楽史、哲学、心理学などを必須科目とする。学位コース3年目とマスターコース2年目ではスペーシャライゼーションに向けて、acousmatic composition (tape)、spatialised interpretation², live interpretation (live electronics) を学ぶ。マスター2年目を除いて、コースは年間600時間のレッスンから成る。』また歴史的経緯が Vande Gorne 自身によって語られている。Musiques&Recherches は Vande Gorne がブリュッセルの王立音楽院で教えていた時代、電子音響音楽を学ぶ学生達の為に門戸が開かれた。その後1993年にモンス王立音楽院学長が同学院内に電子音響音楽スタジオ設立案を提案、その教授として Vande Gorne はモンスへ転職したのだが、その提案が政府からの予算を得られず実現しなかった。一方で Musiques&Recherches は1996年にマルチチャンネルスタジオを併せ持つ多スタジオ施設として改築された。そして2002年に欧州の教育改革が始まると、ベルギーのコンセルヴァトワールも大学レベルの教育に相当するとして同様の学位の取得が可能となった。この教育改革の期に、Musiques&Recherches における電子音響音楽コースはモンス王立音楽院の独立したコースとなり5年の教育課程後ディプロマが取得出来るようになったので、ここからさらに博士課程へ進むことも可能だ。現在一般科目はモンスのスタジオで、作曲、音響学、聴取分析、インタラクティブ技術ならびにセミナーは M&R スタジオで行なわれている。このコースは欧州で唯一音楽基礎教育を受けずに電子音響音楽の勉強が始められるコースなのだそう³。このコース出身者であり現在世界的

² spatialisation interpretation は直訳すれば『空間化(演奏)解釈』であろうか。日本では『アコースモニウム演奏』と呼ばれているものが近いが、システムはアコースモニウムだけとは限らない。

³ 外国人学生も受け入れているが言語は仏語。

に活動している作曲家達に上出の Elizabeth Anderson 始め Theodore Lotis, Stephan Dunkelman, Ingrid Drese, Daniel Perez-Hajdu and Todor Todoroff, また日本人では高橋幸世氏がいる。

3. MUSIQUES & RECHERCHES の活動

Vande Gorne の活動は多岐に渡る。作曲家としてまた教育者としての活動のほか、音楽学をも学んだという Vande Gorne は音楽美学誌『LIEN』を発行してきたし、彼女の拠点である Musiques&Recherches のディレクターとしても、フェスティバル L'Espace du Son 他コンサートシリーズの主催(これらコンサートでは Vande Gorne 自身が acousmonium によりスペーシャライズド・インタープリテーションをしている)、若い世代の電子音響音楽作品を対象とした『Metamorphose』コンクールと acousmonium による電子音響音楽作品のスペーシャライズド・インタープリテーション・コンクール『Espace du Son』を開催している。

4. 謝辞

Musiques&Recherches と Annette Vande Gorne 氏、および Elizabeth Anderson 氏の全面的な協力に感謝します。

5. 著者プロフィール

石井紘美 (ヒロミ・イエンチ・イシイ)

博士 (PhD. 電子音響音楽作曲/音響美学)。ドイツ・ドレスデン音楽大学上級課程にてヴィルフリート・イエンチに電子音響音楽を師事。Konzert Examen (音楽家資格試験) 合格後、英国から奨学金を得て2001年よりロンドン・シティ大学にてサイモン・エマーソン、デニス・スモーリーの指導のもと『日本伝統音楽との関係における電子音響音楽作曲』のテーマで博士研究。CYNETart、フロリダ電子音響音楽祭、英国 SAN・EXPO966、北京 CEMC、Musica Viva、ベルギー Musiques&Recherches、オランダ・ガウデアムス、イタリア EMU 祭など様々な音楽祭や音楽週間にて作品が上演され、また西ドイツ放送、中部ドイツ放送、ドイツ放送などで放送されている。2006年 ZKM 奨学金を得て客員作曲家。WERGO よりポートレート CD『Wind Way 風の道』が出版されている。ケルン在住。